

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292100031		
法人名	(有)弦観光		
事業所名	グループホーム 壱岐の郷		
所在地	長崎県壱岐市石田町筒城東触1840-3		
自己評価作成日	令和2年 2月 3日	評価結果市町村受理日	令和2年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和2年 7月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設では集団生活の中でも個別の対応に力を入れ、多くのイベントを大切にしています。また家族や地域とつながりを持ち、家族会の開催や、公民館の行事に積極的に参加しています。昨年度も地域の草切り、運動会、バレー、ソフトの体育行事、また青年会に入り定期的にお酒を飲み交流を深めています。そのおかげもあり、とても協力的で地元消防団の避難訓練への参加に繋げることが出来ました。また、昨年から夏祭りを地元の方も招待して、50名以上の参加とBBQや抽選会などで大盛況でした。今後もさらに良い関係を築けるようにしていきたいと思っています。また、島内多くのイベントに参加。認知症啓発活動のいき伴への施設全体での参加、介護人材確保対策協議会への職員の派遣、壱岐島内での研究発表での事例発表、小学校の職場体験の受け入れ、そして、利用者さまのデートプラン(個別ケア)の実施などを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海や山に囲まれた自然豊かな場所に位置し、庭園や菜園が隣接している。管理者は、公民館行事の草刈りや運動会に積極的に参加している他、青年会にて消防団との親睦を深め、火災訓練参加に繋がった事例がある。昨年からの取り組みである個別支援は島内の他事業所との事例発表会で高い評価を受けている。デートプランは職員が立案し、利用者・家族の思いを傾聴し願いを叶える個別の支援である。外出の機会が多いことや豊かな食生活を提供している点も特筆すべき点である。また事業所の行事の立案を、職員が主体的に行っている点も優れている。代表の職員の自主性を尊重する姿勢がやる気を引き出し、職員は仕事へのやりがいを感じている。理念の“利用者の意思を尊重して、生きがいのある自由な毎日を提供”するために、職員全員で取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の付くところに理念をかかげ、施設の取り組みとして個別対応を重視している。地域との関係も夏祭りなど年々深まっている。	事業所は、設立当初からの理念を玄関や各所に掲示している。新人職員へは、オリエンテーションにて理念を伝え、先輩職員による1対1の指導を行っている。毎年、年間目標を掲げ、職員の共有化を図ると共に、職員会議や年度毎の振り返りにより、理念の具現化に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館員になり、草刈り、総会、地区の球技大会への参加を現在も行っている。また、昨年から地元消防団への避難訓練への参加をお願いし、施設の造り、利用者の理解、職員との懇親を深めることが出来た。地元の保育所とも芋掘り、交流会を実施。とても親密な関係が築けている。	管理者は、公民館員として町内の行事に積極的に参加している。また青年会にて消防団と親睦を深め、火災訓練への参加が実現している。小学生の職場体験や園児との芋掘、笑顔交流会の他、地元住民を招待しての盛大な夏祭りなど、双方向での交流が広がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の公民館長、民選委員が参加している。また昨年から消防団の方や、夏祭り時の地域の方と、利用者様との交流もあり、地元の方の理解も深まっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月のイベント、反省や事故、ヒヤリの報告をし、それに対しての意見を多く頂いている。そこで出た、芋掘りや、作品展への参加など、現在も継続して行っている。	2ヶ月毎に公民館長や老人会長、市職員や他施設職員、家族など多くの構成員で開催している。事業所行事や外出報告に加えて、ヒヤリハットや事故報告も明らかにしている。災害等に関して、貴重な意見交換を行っている、ただし、議事録に記載がなく、発言者や内容がわからない。	参加者の意見や質問は、議事録に記載し改善に繋げるなど、サービス向上に活かした履歴がわかるよう工夫が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加を頂き、意見交換をしている。また、吉岐市内他施設の状況なども聞くことが出来る。サービスの内容も個別に取り組んだ物など報告出来ている。	管理者は、書類や事故報告の提出の際、市の窓口を訪れている。年金の手続きに利用者に同行することもある。職員は、市や地域の保健、医療、福祉の各機関主催の研修に参加している。管理者は、吉岐圏域介護人材確保対策地域連絡協議会の副会長を務め、連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束、虐待の勉強会も時期をみて実施している。職員は理解出来ており、拘束をしようという考え方は話し合いではまず出てこない。玄関の施錠は昼間は行っていない。	事業所は、玄関施錠を含めて拘束を行っていない。センサーマットは、家族に了承を得て使用しているが、毎月の会議にて使用の是非を検討している。年1回の拘束、虐待に関する研修の他、職員は接遇の研修に参加し、利用者のプライドを傷つけない言葉掛けに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についても、勉強会で定期的に実施している。施設では内出血などが、見られたときは随時報告することになっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活の自立支援については、毎月カンファレンスを行い取り組んでいる。成年後見人制度については、今現在は身近にはいらない状況で、各自での学習にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初の契約時、または料金の改訂時など、家族一軒一軒に確認をしている。現在ご家族より、苦情などは聞かれない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に御家族の方から、クリーニングや、送迎、書類の申請など要望があった。全ての要望に対応出来ている。	家族会があり、花見と忘年会は家族を招待し、楽しく過ごしており、家族との関係を大切にしていることが窺える。事業所は、家族に向けて写真付きの便りを送り、利用者の様子がわかるよう工夫している。家族から、居室の加湿機の購入に関する相談や衣替え時のクリーニングの依頼等があり、事業所はそれぞれに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表、部長も毎日顔を出され、とても話やすい。また、行事なども職員側からの発進でとても自由にやらせてもらっている。	職員は、行事の企画や委員会活動において積極的に意見を出し合い、利用者の楽しみとなる行事を実行している。また今年度、車椅子のまま計測できる体重計の購入が実現している。昨年からの取り組み始めたデートプランの立案には、担当の職員が積極的に関わっていることが確認できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に応じて、賞与には反映している。また、やりがいも大事にして、職員には外部の研修や、交流の機会も積極的に取り組ませている。勤務時間なども極力柔軟に対応出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などは、島外の研修に参加した職員もいたが、現在補助等が出せていないので、今後検討したいと話している。島内研修へは積極的に参加してもらっている状況である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉岐市内の同業のGHとの、職員の交換研修は現在も実施中である。また、他施設への研修も実施している。その際に他の同業者との交流が出来ており、とても良い刺激である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人の個別の対応計画、デートプランを2年前から実施している。利用者様のやりたいこと、行きたいところ、食べたい物など、聞き出し、家族も含めて取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からも、積極的に相談をされる機会が多い。島外にてなかなか出来ない書類の整理や、法事や、お祝いの際の送迎。病院への送迎など行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所のサービスとして、訪問看護などは対応していく準備はしている。何かあれば、家族と相談して柔軟に対応したいきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で、料理や、洗濯など生活習慣も共にしている。また、日常の食事なども、利用者様の希望なども聞きながらメニュー作りに取り組んだりもしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、受診や往診、家族会など、定期的に交流出来ている。また、昨年度から取り組んだデートプランの主旨も理解して頂き、より関係が深まった。広報誌などでもお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔よく行ったお店、場所などを聞き、訪れる機会を設けている。その際に、お店の方、兄弟様などとの交流も見られた。	自宅へ帰宅し寛いだ後、墓参りに行く利用者が多い。家族と外食を楽しむ人もいる。個別支援では職員も同行しており、家族から昔の話を聞き取る良い機会となっている。携帯電話を持っている人もおり、家族と連絡を取り合っている。毎年恒例となっている“いき伴”では、車椅子の利用者も島内を走り、沿道の声援を受けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握した上で、席や、声かけなどで関係作りに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の方など、経過などは気にかけている。施設を退所された家族や、現在入所中の家族などにも、夏祭りなどへの参加を促し、関係は切れないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望など、毎月、職員全員でカンファレンス時に確認している。デートプランの実施で今までより深く話せるようになっている。家族にも話を聞く機会が増えたように思える。	起床、就寝の時間は自由である。利用者の思いや意向に寄り添う取組みを実行している。衣替えや外食、墓参りの希望を叶えている。家族から昔の話を聞き取ることもできている。ただし、会議では、デートプランについての報告が挙がっているが、利用者毎に記録するといった取組みがない。	利用者から聞き取った思いや家族から得た生活歴についての話は、職員間でいつでも共有できるよう、記録方法の工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食生活は好き嫌い、パン食など出来るだけ対応している。また、お部屋も自由にアレンジして頂いている。サービスに関しても要望には順次対応していきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンスで、一日の活動、有する力量など共通理解をし、その人一人一人にあった計画を立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファでは、課題やケアのあり方を検討している。必要な場合は家族、関係者と連絡を取り、購入などの検討や、受診の相談などさせて頂いている。柔軟な介護計画が出来ていると思う。	管理者は、利用者の入居前の情報等を参考にし、本人、家族に聞き取りを行い暫定プランを作成している。全職員によるカンファレンスで評価し書面にて本人・家族の同意を得、長期1年短期6ヶ月の介護計画を作成している。本人の力を維持するための計画であり、月間サービス計画書に実践状況を記録し、モニタリングに活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のプランは、毎日その実施記録をとっており、カンファレンス時に見直ししながら、プランの中身をアップしたり、おとしたりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生み出されるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合がつかないときの受診の対応や、島外にいるためになかなか出来ない書類の管理や、必要な物の購入を行ったり、その都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の畑で芋掘りや、保育所の子どもたちとの交流など楽しみも多い。買い物などは、安いスーパーではなく地元のお店を利用する機会が多く顔なじみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は施設入所前のかかりつけ医を利用している。施設として受診を促している病院はなく、その都度家族と相談しながら病院を選んでいく状況である。また、病院側も往診等で対応して頂く機会も多い。	かかりつけ医受診を基本として、管理者が支援している。家族対応の場合は、主治医宛の体調を記した文書を預け、回答も紙面で受けている。遠方の家族にも受診毎に連絡し、家族と情報を共有している他、職員には申し送り時に伝えている。内科、専門科共に往診がある。夜間緊急時は、主治医に指示を仰ぎ、適切な対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はGHには在中していないが、デイサービスの看護師の方に相談する機会はある。症状に合わせて病院を変えて、柔軟に対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、経過や、治療方法、退院時のADLなど、連携室との連絡は密に出来ている。連携室の方とは交流もあり、施設に実習に来られる機会もあつて、関係はとても良好である。施設の広報誌も郵送している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設入所時に、御家族の方には看護師や、医師が常駐していない点を理解して頂き、早期の受診にて対応していることを伝えている。また事業所でなるべく最後まで生活して頂く方針だが、どうしても対応が出来ないときは、最終的には病院での対応になる点はお伝えし理解して頂いている。	利用開始時、事業所では看護師不在や体制が整っていないため看取りを行わないことを家族へ説明し理解を得ている。重度化した場合、早い時点で、事業所でできる限りの対応を行うことを伝えており、設備が整った医療機関に搬送している。職員は他の施設での看取りの研修を受講し、理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は消防署のもと実施した経緯はある。職員は、おおむね受講している。今後も定期的実践していく予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	5月（夜間）、11月（昼間の火事）、3月（原発）の避難訓練は毎年実施している。また、水害の避難訓練など、追加で避難訓練を実施することもある。昨年より地元消防団の方にも避難訓練に参加して頂けた。掃除の際にコンセントの埃などは注意している。	年2回、昼夜間想定で消防団参加の火災訓練を実施している。夜間想定では、プレーカーを落とし暗闇行動訓練を行い、宿直者も参加している。原子力発電所事故想定や水害、台風などの自然災害訓練も行っている。倉庫に非常持出品を保管し、食料の備蓄品は賞味期限を確認している。定期的に設備機器や埃の点検を行っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは特に気をつけている、言葉一つで入浴に行ったり、気持ちよく外出などされるので、その都度注意して対応している。	勤務中の職員の携帯電話の使用は禁止し、守秘義務の誓約書の提出を義務付けている。前回の外部評価後、言葉遣いに関する研修を実施し注意喚起を行った結果、利用者の気持ちを尊重する言葉掛けで小食だった利用者の食が進んだ事例がある。ホーム便りに掲載する写真の同意は口頭のみであり、書面での承諾は取っていない。	ホーム便りや掲示板に掲載する利用者の写真の掲載に関する同意は、書面でも残すことが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	身近なもので言えば、何が食べたいか？どこへ行きたいか？サイダーが欲しい、回転焼きが食べたいなど、利用者の方からの発進の機会は多いと思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはなく、好きなように過ごして頂いている。また、自己主張出来る方も多いので、希望も聞きやすい。こちらとしてもカラオケやDVDで歌の提供など、好きなことには気にかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段は、個人的にされているが、イベントや外出時は職員が手助けして、女性の方などは化粧、髪をセットしている。お部屋の整理も本人様が使いやすいように定期的に衣替え、整理をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のイベントには、恵方巻き、ウナギ、焼き肉、うにやタケノコ、栗などを用いている。また生魚を焼いたり、パン食に対応したり、好きな物、食べたい物には注意している。野菜切りや、お盆拭きなど出来る範囲で準備も協力して頂いている。	職員が献立を作成し、調理している。海の幸や菜園で採れた新鮮な野菜を取り入れたメニューである。おせち、七草粥、盆の料理、流しソーメン等季節感を大切にしていることが確認できる。誕生日には利用者のリクエストに応じたり、海岸でのバーベキュー、外食等バラエティに富んだ食事は、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分などは記録をして、一日の水分量を確保している。また、お粥や刻み、トロミを付けたり、少しメニューを変えたりなど一人一人能力に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは出来る方は自分でして頂き、不十分な所だけ介助している。口腔ケアスポンジや、くるりなブラシなどの使用も開始した。義歯の合わなくなった方には、訪問歯科で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに関しては誘導が必要な方は、排泄状況を記録し、定期的な排泄を促している。安易にオムツにするのではなく、基本は全員トイレで排泄してもらいたいので、二人介助などで現在に対応している状況である。	トイレでの排泄を基本としている。おむつを使用する場合は、就寝中のみとする等検討を重ねている。更におむつメーカーの担当者による講習を受講し、パッド類の適切な使用法を学んでいる。パッド類は家族の持込も可能である。夜のみポータブルトイレを使用する場合、昼間は布を掛け、個人の尊厳に配慮していることが確認できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い物や、水分、ヨーグルトなどをなるべく多く提供し、自然排泄に努めている。それでも便秘の方はいらっしゃり、医師と相談して、薬の使用も行っている。歩行訓練なども基本全員実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日が決まっているが、イベントや、受診、面会などその日の都合に合わせて柔軟に対応している。また、入浴の希望があれば、その都度入浴も可能である状況である。	一人週2回の割合で入浴支援を行っている。湯は毎日沸かしているため、利用者の体調に合わせて日程を変更する等、柔軟に対応している。介護度の高い利用者もできるだけ浴槽に浸かることができるよう支援を行っている。体調が悪い利用者に対しては清拭を行っており、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体力や、生活習慣で、昼寝や、午前中から休まれている方もいらっしゃる。それぞれご家庭からなじみの寝具なども持ってこられたり、湯たんぽや、加湿器など使用し休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の効果を研修した機会をもうけた。便の状況や、夜間の入眠状況、認知症の症状で、内服薬を医師に相談してその都度対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常では料理、洗濯物、お盆拭きやおしぼりたたみ等、お手伝いを出来る範囲でお願いしている。また、パンやピーナッツ、サイダーや回転焼きなど個別に提供している。たまの気分転換で外出などで買い物、植物いじり、見学など、個別の対応も出来る限り行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年から取り入れたデートプランを利用して、本人の希望を聞き、外出や、家族の協力のもと、自宅に帰ったり、墓参りに行ったという形で、現在は個別に対応している。	みかん狩りや芋掘り、花見やチューリップやあじさい見学等、外出の多さは特筆すべきである。昨年から取り組んでいる個別支援にて、自宅に帰宅したり、墓参り、外食など家族と楽しんでいる事例が多い。事業所の周辺は緑が豊かで、菜園では利用者も土に触れ収穫を行っており、自然を身近に感じることもできる事業所である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理できる方は現在も現金を所持されている。自動販売機でジュースを購入されたり、外出時に買い物されたりも見られる。その他の方もお小遣いとして御家族様より自由に使えるお金を預らせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話対応は行っている。携帯電話をお持ちの方は、自由に使って頂いている。手紙は施設の方で定期的に送らせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は毎日掃除をし、清潔を保っている。壁には写真や、イベントの思い出などを貼り生活感、季節感なども表している。アロマや、入浴の際に入浴剤なども利用している。	リビングの窓から見える木々の移り変わりの様子や空模様など季節の変化を楽しむことができる。開放的な空間にて調理の音や匂い、利用者と職員の歓談の様子は家庭的で、利用者同士が落ち着けるよう席順への配慮もある。職員による換気や感染症に配慮した清掃にて、清潔で過ごしやすい共用空間となるよう工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に部屋で過ごされる方もおり、裁縫やTVなど楽しまれている。ディルムでは、ソファなどへは、それぞれの関係を考えて誘導したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は飾り付け、家具、寝具は自由にアレンジして頂いている。最近では仏壇を持ち込まれた方もいらっしゃいました。	居室は収納スペースが広く、衣類、寝具や排泄用品を収納し、ポータブルトイレには布を掛ける等、尊厳に配慮した工夫がある。テレビやソファ、仏壇や家族写真があり、本人が落ち着けるよう家族と相談して配置している。換気や日差しはカーテンで調節し、利用者は居心地よく過ごせるよう職員は清掃などに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわからなくなられた方のために、案内の印をつけたり、休憩用にソファなどを廊下に設置した。また、作品や保育所からのプレゼントなどを飾っている。		